【児童・生徒質問（３９）】【学校質問（２６）】
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる
「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

	学校質問	児童・生徒質問	差
小学校	91.4%	80.0%	11.4%
中学校	94.2%	84.4%	9.8%

▲学校（教師）と児童生徒の意識の差
約10%

子ども主体の授業改善

子どもが主体的に学ぶための４つの姿

☑自ら課題に向かう

やってみたい！知りたい！という願いをもっている。

☑学び方を選択する

自分に合った方法で学びを進めている。

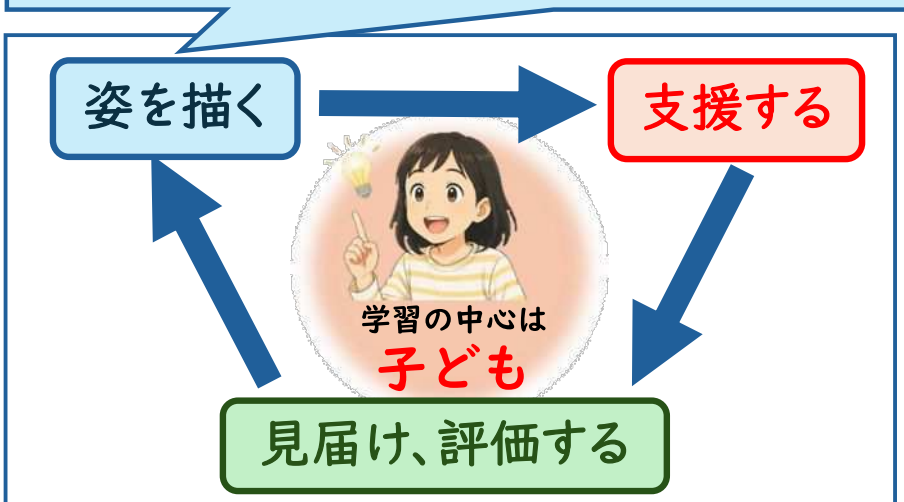
☑考えを再構築する

仲間の考えから学び、自分の考えに生かしている。

☑学びを次につなげる

振り返って自分の学びを自覚し、次の学びに生かしている。

４つの姿を視点に、主体的に学ぶ姿を具体的に描き、支援し、見届けましょう。



子ども主体の授業改善サイクル

国語

算数･数学

英語

質問調査

○**国語、英語**は全国学力・学習状況調査の**調査問題、質問紙調査**から見られた課題について、指導改善を提案しています。
○**算数・数学**は、調査問題の**無解答率**から見られた課題について、 指導改善を提案しています。

R7年度以前の指導改善資料はこちらから。

※本資料のイラストは生成AI「Copilot」で作成したものを使用しています。

国語　子ども主体の授業改善ポイント

子どもたちに『必然』のある活動の中で、『言葉への自覚を高め』ながら、『学びの自覚』を積み重ねることで、子どもが主体的に「言語能力」を獲得していく授業になります！

①「学び方を選択する」

『言葉への自覚を高める』ための学び方の選択を！

小（中）学校学習指導要領解説
国語編　P.12 をチェック!!

「言葉への自覚を高める」
＝「言葉による見方・考え方」を働かせる

★「選択する」ためには、「学び方」を知って、身に付けることが必要です。

②「考えを再構築する」

『必然』のある交流を通して自分の考えを再構築する場を！

小（中）学校学習指導要領解説
国語編　P.37、38「共有」をチェック!!

「再構築」＝自分の考えを確かにすること／広げ深めること

★そのために、他者に説明したり、他者の考えと比較したりすることが必要です。

③「学びを次につなげる」

導入から終末まで適宜、評価・助言することで、『学びの自覚』を！

小（中）　学校学習指導要領解説　総則編
小 P.93～、中 P.91～「学習評価の充実」をチェック!!

★自分の学習状況を自覚できると、次の学びにつながっていきます。

国語①

【中学校　国語4ニ】
語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる

岐阜県	正答率
	３６.８％

『言葉への自覚』を高めるための
＝
【言葉による見方・考え方を働かせる】
学び方を選択できるようにしましょう！

ここを大切に！

- ☑「選択する」ためには、「学び方」を知って、身に付けることが必要。
- ☑「学び方」を意識できるような価値付けや助言を行う。
- ☑ 学年の系統性に沿って、螺旋的に学びを積み重ねる。

実践例　小学校3年「モチモチの木」

語り手の「豆太ほどおくびょうなやつはない。」という文に、児童が着目した場面

「豆太」はどのような人物だと思いますか。

「豆太」は「おくびょう」な性格だと思います。122ページの1行目に書いてあるからです。

「おくびょう」ってどういうことかな。これまで学習した「学び方」を使って、豆太がどのような人物かもう少し詳しく説明してみましょう。

選択した「学び方」をもとに説明を付け足していく

①辞書の意味

「辞書の意味」を調べたら、「おくびょう」は、「気が弱く、少しのことでもびくびくする」とありました。豆太の様子にぴったりな言葉だと思います。

②似た言葉との比較

付け足しで、僕は似た言葉の「こわがり」と比べてみたけど、豆太はこわいと思うだけではなくて行動できなくなっているから、やっぱり豆太は「おくびょう」だと思います。

③別の言葉・文とつなげる

私も付け足しで、「ぶるぶる、夜なんて考えただけでも、おしっこをもらしちまいそう」って文とつなげて、これが「おくびょう」な姿だと思いました。

いろいろな「学び方」で、「おくびょう」という言葉の意味や働き、使い方を考えると「豆太」がどんな人物かより具体的に想像できますね。

国語②

【中学校　国語4四】
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる

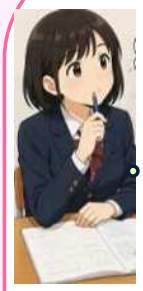
岐阜県	正答率
	４１.０％

『必然』のある交流を通して自分の考えを再構築する場を位置付けましょう！

ここを大切に！

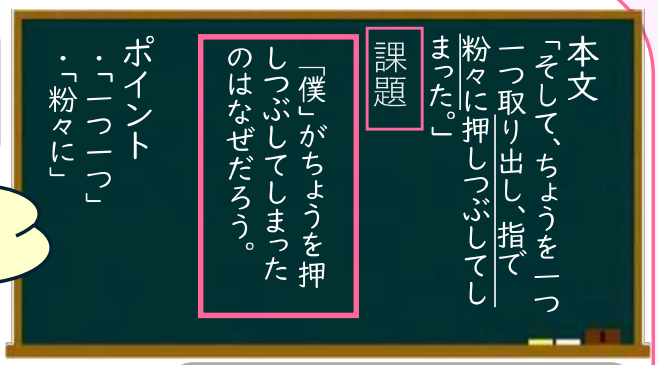
- ☑考えたいと思える課題の設定・内容を吟味する。
- ☑交流の中で明らかになったことを、視点をもって改めて言語化する場を設定する。
- ☑「自分の考えがより確かなものになったな」という子どもの思いを大切にする。

実践例　中学校１年「少年の日の思い出」



「一つ一つ」「粉々に」という表現をつないで考えると、「『僕』には、もうどうやっても償うことができない」という思いから押しつぶしたのだと思う。

私はこう考えたけれど、他にどんな考えがあるのか、聞いてみたいな。



ちょうを「宝石」にするエーミールと、獲物を「宝物」だと考えている「僕」は、元から分かってもらえないことを感じていたのに、説明に行って拒否されたんだね。 **キーワード**

「押しつぶしてしまった」のところから、「押しつぶした」と比較すると、そうせざるを得ない様子が読むことができると思うな。 **置き換え**

「闇の中で開いた。」の「闇」から、ちょうを直視できないことが分かるよ。嫌だけど自分に罰を与える方法はそれしかないと思ったんだね。 **情景描写**

■交流を見届ける視点
- 根拠はあるか。
- どの観点に着目しているか。
- 共通点や相違点を見つけているか。

「説明しようと試みる」「おもちゃをやる」「ちょうの収集を全部やる」のところから何とかエーミールに分かってもらおうとしたけれど全部拒否されて、償うことができないことが分かったんだね。 **行動**

■考えを再構築する視点
- やっぱり～　（強化）
- 付け足して～（付加）
- 変わって～　（変容）
- 広げて～　（拡張）
- つなげて～　（統合）

初めは考え方の違うエーミールに分かってもらえず、どうしようもないという思いだけだったけれど、ちょう集めをする資格がない自分に罰を与えるという思いから、押しつぶしてしてしまったという考えが付け足されたな。

仲間と交流すると読みの根拠や観点が増えて自分の考えが深まるな。また交流したい！

国語③

【児童・生徒質問】

(56)国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか

(57)国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか

		よくある	たまにある
(56)	小	26.1%	50.7%
	中	29.6%	47.7%
(57)	小	28.9%	45.2%
	中	29.6%	45.1%

「たまにある」を「よくある」に引き上げたい！

導入から終末まで、適宜、評価・助言することで、『学びを自覚』できるようにしましょう！

ここを大切に！

- ☑「単元で付けたい力」に即した評価や助言をする。
- ☑学習状況を自覚できるようにし、次の学びに向かう意欲を育む。
- ☑単元において、振り返りの位置付け方や方法などを精選する。

実践例 小学校5年 「『子ども未来科』で何をする」

単元を通して

単元で付けたい力［思・判・表 A−イ］

1・2・3	○学習計画を立てる。 ■学習活動だけでなく、「どんな力を付けたいのか」を子どもたちと共有して計画を立てる。 ○テーマを全体で設定し、提案する内容を決める。 ○提案の根拠となる情報を集める。
4・5	○スピーチの構成を考える。【重点】 ○スピーチメモを基に練習する。 ■単元で付けたい力に立ち返り、構成を考えたり、練習したりする際のポイントとなるようにする。 ■「単元で付けたい力」に即して個のよさを価値付け、全体に共有し広げる。
6	○スピーチをする。 ○感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。

単位時間の中で（第6時では）

「学びを自覚」できるための手立て

導入	○単元で付けたい力を確認する。 ■これまでの学習を想起させながら、スピーチを聞くときのポイント（話の構成、話し方）を、具体的に提示する。
展開	○スピーチをして感想を伝え合う。 「今のスピーチについて、スピーチの構成はどうでしたか？」 「分かりやすいと感じたのは、どんな構成になっているからだと思いますか？」 ■話の構成、話し方の両面から評価しているかを確認する。 ■発表の様子を録画して、ポイントに沿って振り返るなど、ICT機器を活用して学びの実感をもたせる。
終末	○単元の学びを振り返る。 ■今後の生活や他の学習への広がりがもてるようにする。 ■言語化することを大切にし、「話す」書く」「話してから書く」など、実態に応じて方法や時間、量を工夫する。

算数・数学　子ども主体の授業改善ポイント

【小学校　算数Ⅰ(4)】調べたい数量の求め方を**数や言葉を用いて記述**できるかどうかをみる

【中学校　数学7(2)】数学的に表現したことを**事象に即して解釈**し、問題解決の方法を**数学的に説明**することができるかどうかをみる

県無解答	6.4%
県無解答	38.0%

【全国学力・学習状況調査より】

自分で論理をつくる力をつけるためには、『単元・領域を通した授業づくり』が大切です。

教材研究 ➢ 実態把握 ➢ 課題化

①「自ら課題に向かう」

(1)単元・領域の**ストーリー(系統性)の中で**本時の役割をとらえ

(2)目の前の子どもの**実態を正しく把握し**実態にあった授業を設計します！

教師は・・・「教育データを利用した授業設計」

子どもは・・・「教育データによる学びの自己調整」

R7教育データ利活用推進事業まとめ

追究（学び方は、内容と子どもの実態に合わせて）

②「考えを再構築する」

子どもの**思考の流れ**を**見える化**し、環境設定、発問を**具体的に描き**ます！

(1)課題→まとめ(結論)の**骨組み**を描く

(2)子どもの思考を、**具体的に**書き出す

(3)それぞれの子への支援となる**発問**

【根拠　解釈　統合　発展】や**しかけ**を考える

R7指導改善資料

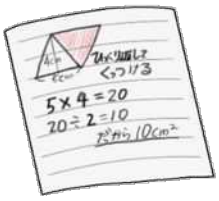
振り返り（変容の見える化）

③「学びを次につなげる」

効果的な振り返り方法を、**内容、子どもの実態に合わせて**選択します！

「書き加え」「文章」「対話」「評価表」「録音・録画」「他の問題」・・・**毎時間、文章で振り返る必要はありません。**どのタイミング・方法が効果的か、単元全体を見ながら、子どもの実態に合わせて検討します。

(例)書き加える振り返り



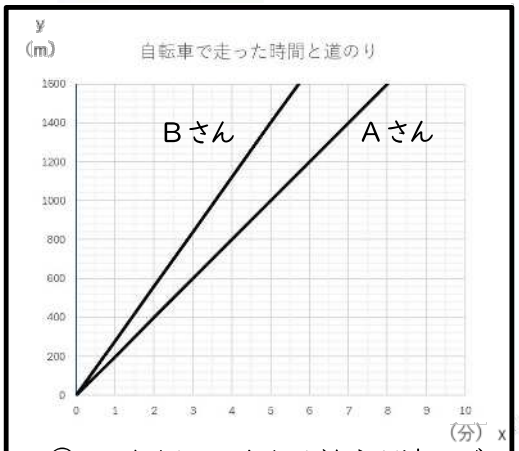
たらないところをつけたす

条件を変えても同じようにできるか振り返る

算数・数学①

自ら課題に向かう導入場面を考えるときには、
☑単元・領域のストーリー（系統性）の中から
本時の役割をとらえ、
☑子どもの実態にあった支援方法を考えましょう！

実践例　小学校　6年「比例と反比例」　①自ら課題に向かう



① A さんと B さん、どちらが速いですか。
② 1400m の地点を B さんが通過してから、A さんが通過するまでの時間は何分ですか。
③ 出発してから5分後に、B さんと A さんは何 m はなれていますか。

本時の役割は？

第６時
２本の比例のグラフから読み取る

（本時）
前時から引き続きグラフを扱う。
・ただ値を読み取るだけでなく、読み取った値の意味を、具体的な場面と結び付けて考える必要がある。

（小5）
・比例の性質、式やグラフの特徴を学んできた。

（中1）
・比例,反比例を関数としてとらえ直す。
・関数関係を見い出し、考察して表現する。

子どもの実態は？

グラフから値を読み取ることができないと、
本時のねらいに向かえない。

グラフの（x, y）の値について、
どちらか一方からもう一方を見つけることができるか。

あなたのクラスは、どのパターン？

おおよその児童ができている

導入
追究
終末

短時間で導入することで、①②③の答えを見つけるだけでなく、②③の共通点や相違点までせまろう。

追究、交流の時間が長くなることで、自分の学びを見つめ、修正したり、深めたりする時間を確保することができます。

多くの児童ができていない

導入
追究
終末

どちらか一方から、もう一方を見つける方法を全体で確認してから、本時の問題に入ろう。

前時までに習得しきれていない内容を復習することで、本時の学びにスムーズに入ることができるようになります。

理解の差が大きい

導入
追究
終末

全体で復習をするのではなく、苦手な子に、個別に対応できる環境設定をしよう。

個別の支援を優先した環境設定をすることで、どの子も主体的に学び進める支援をすることができます。

実態にあった導入を考えましょう！

算数・数学②

子どもの思考の流れを予想し、見える化しましょう。その上で、
☑つまずきに応じた教師の支援
☑さらに考えを深めていけるようにするための教師の支援を具体的に描きましょう！

実践例　小学校　6年「比例と反比例」　②考えを再構築する

教師の支援の描き方（例）

白：子どもの思考　　青：子どもの状態　　緑：教師の支援

（1）課題ーまとめの骨組みを描く

（2）子どもの思考の流れを具体的に予想する

（3）つまずきに応じた教師の支援を考える

（4）教師の支援によって、変容した子どもの思考を予想する

（5）さらに考えを深めていくための教師の支援を考える

問題を把握する。

課題：　グラフから読み取って問題を解決するには、どこに着目したらよいかを考えよう。

考えの一歩が踏み出せずに立ち止まっている子

解釈

①AさんとBさんでは、どちらが速いか分からない。

AさんとBさん、同じ時間で、どちらがたく さん進んでいるかな？

AさんとBさんでは、Bさんの方が速い。

③出発してから5分後に、AさんとBさんが 何m離れているか分からない。

②の問題と同じように考えられないかな？

出発してから5分後の AさんとBさんの地点は 、グラフのどの点に表れている？

出発してから5分後に 、AさんとBさんは400m 離れている。

解釈

②1400mの地点をBさんが通過してから、Aさんが通過するまでの時間が分からない。

Bさんが1400mの地点にいることは、グラフのどの点に表れている？

Bさんは何分だと読み取れるかな？

同じようにAさんを考えると？

1400mの地点をBさんが通過してから、Aさんが通過するまでの時間は2分。

答えを求めているが、根拠があいまいな子

根拠

①AさんとBさんでは、Bさんの方が速い。

AさんとBさんの速さはそれぞれ毎分何m？

1分間で何mずつ進んでいるかな？

1分に何mずつ進むかをグラフから読み取れば速さが分かるから、
Aさんは、毎分200m 、Bさんは毎分280mの速さで進む。
だから、Bさんの方が速い。

根拠

②通過するまでの時間は2分。　③400m離れている。

どの値に着目したの？

答えはどんな式で求められたの？

どうしてそのような答えになったか説明できるかな？

AさんとBさんのグラフからyの値が1400のときの、xの値を読み取ると、Aさんは7で、Bさんは5だから、 7−5＝2 でBさんが通過してから2分後にAさんが通過することが分かる。

AさんとBさんのグラフから、xの値が5のときの、yの値を読み取ると、Aさんは1400で、Bさんは1000だから、1400−1000＝400 で2人は400m離れていることが分かる。

根拠が明確になっているが、まとめ（結論）に至っていない子

統合

問題を解決できたから、追究は終わりだ。

課題に対するまとめを書いてみよう。

要するに、どういうことが大切？

解釈

問題を解決できたけど、課題のまとめが分からない。

グラフのどこに着目したら分かったの？

その数は、グラフのどこに表れているかな？

課題に対する結論
・グラフがどれだけ急になっているかに着目して、速さを求めるために、1分間に何mずつ進んでいるかを読み取る。
・2つのグラフの開き具合に着目して、値の差を読み取る。

結論を出して止まっている子

同じように進むとすると、出発してから10分後には、AさんとBさんは、どれだけ離れていますか？

グラフがかかれていない値を調べないといけないから、読み取ることができない。

「同じように進むとすると 」と書いてあるけれど、グラフはこの後、どうなっていくのかな？

グラフの直線を伸ばして考えればよさそうだ。

発展

統合

結論をさらにまとめ直すことはできるかな？

さらに考えを深めていける子

発展　統合

他にもグラフから読み取れそうなことはないかな？

新たな問題をつくってみよう。

問題ができたら仲間と取り組んでみよう。

結論にさらに付け加えられることはありそう？

グラフに表されていない値のことについてもまとめられそうだ。

統合

課題に対する結論
グラフにかかれていない値を調べたいときも、「同じように進む」ということは、グラフが直線に伸びていくことだということに着目して、グラフを伸ばして、その値を読み取ればいい。

学びを振り返る

算数・数学③

本時の効果的な振り返り方法を、内容（単元における本時の役割）と子どもの実態に合わせて選択しましょう！

実践例　小学校　6年「比例と反比例」　③学びを次につなげる

	時	主な学習内容	振り返り方法
比例の性質	1	比例する2つの数量の関係には、どんな性質があるか調べる。	文章
	2	y が x に比例するとき、x の値が□倍になると、それにともなって y の値も□倍になることをまとめる。	他の問題
比例の式	3	比例の関係を、式に表す方法を考える。	書き加え
比例のグラフ	4	比例する関係をグラフに表して、その特徴を調べたり、グラフから値を読み取ったりする。	文章
	5	道のりが時間に比例する問題で、グラフに表して、道のりを求めたり、時間を求めたりする。	他の問題
	6	2本の比例のグラフから、いろいろなことを読み取る。	書き加え
	7	別の数が「決まった数」になる場合、どんな関係になるかを調べる。	書き加え
比例の利用	8	比例の関係を活用した問題の解決方法を考え、表や式を用いて説明する。	文章
	9	比例の関係を活用した問題の解決方法を考え、表や式を用いて問題を解決する。	書き加え
まとめ	16	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学びを振り返る。	文章

これは例です

振り返り【例】とそのよさ

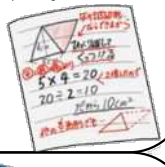
2つ以上の方法を組み合わせることもできます。

文章

どんなきっかけで、どのように自分の学びが深まったのか、**客観的に**振り返ります。**変容を意識**したり、**順序立てて説明**したりする力がつきます。

書き加え

自分の考えの**どこが不十分**で、どう修正、追加をすると、**より確かな考えになるのか**考えることを通して、確かな論理を創り出す力につながります。



他の問題

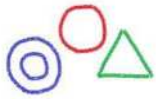
他の問題に取り組むことを通して、本時の学びが理解できているのか**確かめたり**、**他の場面に適応できるのか考えたり**することができます。

対話

書くことが難しい発達段階だったり、苦手だったりする子どもたちが、学びを振り返るときに有効な方法です。

評価表

短時間で**必要な視点に沿って**、客観的に自分の学びを振り返ることができます。◎○△をつけたり、該当するものを選んだり、方法はさまざまです。



録音・録画

学びをアウトプットすることで学んだことを確かにします。操作を伴う学習内容も、端末を活用することで、記録に残すことができます。

英語　子ども主体の授業改善のポイント

子ども主体の授業にするには、子どもの**姿を具体的に描く（左図）**ことが大事です！そして、その具現のために**支援（右図）**しましょう！

①自ら課題に向かう

困り感：目的、場面、状況を設定しても子どもたちが自ら課題に向かいません。

伝える相手や活動の目的を具体的に示して、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」がより働くようにしています！

②学び方を選択する

困り感：子どもたち一人一人の実態に合わせた授業が難しいです。

子どもたちの目的に応じて、**学習方法や学習形態を選択**する場を位置付けています！

③考えを再構築する

困り感：「教える」以外にどのような支援をすればいいのでしょうか。

内容や英語表現が、相手意識や目的意識にそっているのか、「**気付きを促す言葉かけ**」を大切にしています！

「子どもたちに答えや、やり方を教える」から、
『子どもたちの思考がめぐるように支援する』へ
指導観を転換させましょう。

英語①

【自ら課題に向かう】
困り感：目的、場面、状況を設定しても
子どもたちが自ら課題に向かいません。

伝える相手や活動の目的を具体的に示して、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」がより働くようにしています！

＜授業の導入時のイメージ＞

目的、場面、状況の設定 ― 伝える相手・活動の目的　見方・考え方

実践例① 伝える相手を具体的に明示する（話す/書く）

◎「ALTの友達のTomへ」だけではなく、「Tomがどんな人物なのか」を示します。
＜Tomについて＞・Tom can play soccer very well.　・He likes the countryside.
・He is interested in samurai.　…etc.
※Tomに関わらせながら内容をまとめるところに、見方・考え方が働きます。

T　：Let's introduce good places in Gifu to Tom(ALT's friend).
S1：【soccer】 ⇒「I'll introduce *Nagaragawa Stadium. Because…*」
S2：【the countryside】 ⇒「I'll introduce *Shirakawago. Because…*」
S3：【samurai】 ⇒「I'll introduce *Gifu Castle. Because…*」 ※下線部に見方・考え方が働きます。

中学校英語 16 【正答率 岐阜県：56.2%】
問題の概要：留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を話す。

実践例② 活動の目的を具体的に伝える（聞く/読む）

◎「本文を読んでみよう」ではなく、読む目的を具体的に伝えます。
※「著者の伝えたいこと（要点）を読み取る」という目的をもつことで、著者の「主張」や「その理由」に着目し整理していくところに、見方・考え方が働きます。

T：What does the author want to say?（著者の伝えたいことの読み取りの場合）
～生徒の心の中で、読み物との対話が始まります～
S：著者は、地球温暖化については反対なんだ。理由は…。だとすると…
S：著者は、温暖化の原因は、自分たちにもあると思っているんだ。だとすると…
S：著者の主張から、著者が伝えたいことは〇〇ということだ。 ※下線部に見方・考え方が働きます。

中学校英語 10（1）【正答率 岐阜県：50.9%】
問題の概要：インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを把握する。

ここを大切に！

☑目的、場面、状況の設定では、伝える相手や活動の目的を具体的に示す

☑子どもたちが、見方・考え方を働かせ、内容や表現を考える

英語②

【学び方を選択する】
困り感：子どもたち一人一人の実態に合わせた授業が難しいです。

子どもたちの目的に応じて、**学習方法や学習形態を選択**する場を位置付けています！

実践例　子どもたちが学習方法や学習形態を選択する

～子どもたちはこう思っているかもしれません～

ちゃんと言えるか不安…
もう少し練習したい。

もう言えるのに・・・
早くペアでやってみたい。

これから15分間、今の自分に合った学習をしましょう。
タブレット端末の画面を参考に、途中で学び方を変えてもよいですよ。

タブレット端末で可視化

発音が心配だから、デジタルテキストで練習しよう。

Hanako

Kenさんもペアでやりたいんだな。話しかけてみよう！

Taro

<授業の終末などで…>

Hanakoさんはなぜ、個人学習を選んだのですか？

私は最初、**少し自信がなかったので個人で練習**をしました。でも、その後**ペアでやったら意外と話せた**ので、次は**自信がなくても「まず、やってみる」ことも大切にしたい**と思いました。

Hanakoさんのように、**目的をもって選択する**ことが大切ですね。

児童・生徒質問　41　【4件法で「1.当てはまる」の割合：小学校：37.5%、中学校：29.3%】
質問内容：自分にあった教え方、教材、学習教材などになっていましたか。

ここを大切に！

- ☑目的を明確にもち、自分に合った選択ができている
- ☑自己選択する時のルールが分かっている
- ☑よりよい姿や表現を目指し、最後まで学び続けている

英語③

【考えを再構築する】
困り感：「教える」以外にどのような支援をすればいいのでしょうか。

内容や英語表現が、相手意識や目的意識にそっているのか、「気付きを促す言葉かけ」を大切にしています！

実践例① 内容面について、気付きを促す言葉かけ

学習指導要領では、「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら」相手意識を大切にしたコミュニケーションを図ることが重視されています。そのため、授業では次のような相手を意識できる言葉かけをして、気付きを促しています。

【内容面】中間指導の場で…

I like your idea, but this is for him.

・「Does he like spicy food?」

・「He wants to know about Japan.」

・「秋の味覚を楽しみたいと言ってたよ。何を勧めるといいかな？」

中学校英語 13【正答率 岐阜県：45.5%】
問題の概要：留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書く。

実践例② 言語面について、気付きを促す言葉かけ

学習指導要領では、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて適切に表現すること」が重視されています。そのため、授業では次のような目的等に沿った言葉かけをして、気付きを促しています。

【言語面】中間指導の場で…

・「友達にも先生にも同じ言い方でいいかな？」

・「初めて会う人に伝える表現だよね？」

・「許可を求める表現として適切かな？」

・「お願いする表現として適切かな？」

・「Can youとCould you の違いにも着目したいね。」

場面	友達・同年代	先生・初対面・目上
声かけ	Hey, Ken!	Excuse me, Mr. Ito.
道案内	Go straight.	Please go straight and turn left.
許可	Can I use this?	May I use this?
お願い	Pass me the pen.	Could you pass me the pen, please?
誘い	Let's play.	Would you like to join us?

中学校英語 15(2)b【正答率 岐阜県：30.6%（全国：32.1%）】
問題の概要：電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらえるように依頼する。

ここを大切に！

☑具体的な相手意識や目的意識がある

☑相手意識や目的意識に対して、内容や表現が適切である

☑見方・考え方を働かせ、内容や表現を再構築している

児童生徒質問調査

自校のカリキュラム・マネジメントと指導改善に質問調査の結果を活用しましょう

1 令和８年度の質問調査の結果（岐阜県）から見えてきたことは何でしょうか？

児童生徒質問調査及び学校質問調査には、学習指導要領や生徒指導提要等で述べられている、「このような児童生徒を育成したい」という願いが込められている質問が多くあります。とりわけ、児童生徒質問調査によって、当該学年児童生徒の学習と生活の状況について、その特徴や傾向を読み取ることができます。

（１）授業改善に関する取組状況

授業の中で、児童生徒が自らの学習を主体的に調整できるように工夫しましょう。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（%） 岐阜県（R８）	全国（R８）	全国との差
小	38	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	26.3	25.8	0.5
中	38		26.0	22.6	3.4
小	39	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	31.2	28.3	2.9
中	39		34.5	27.0	7.5
小	40	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	27.3	26.9	0.4
中	40		28.9	23.1	5.8
小	41	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	37.5	34.9	2.6
中	41		29.3	25.3	4.0
小	42	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	44.5	43.5	1.0
中	42		45.7	39.6	6.1

「授業で工夫して発表していた」「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」「学んだことを生かしながら考えをまとめていた」等、**「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている児童生徒は、小・中学校とも全国平均より高い**ことが分かります。

主体的な学習の調整

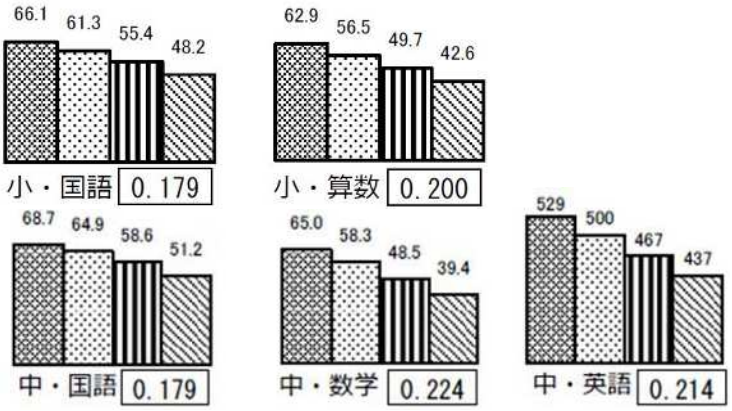
小	22	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	31.6	28.7	2.9
中	22		33.9	27.4	6.5
小	43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	33.0	31.4	1.6
中	43		34.5	29.3	5.2

主体的に学習を調整できていると考える児童生徒は、小・中学校ともに全国平均より高いことが分かります。主体的に学習を調整できていると考える児童生徒の方が、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。

「学びの主体的な調整」ができていると考えていると考える児童生徒ほど、正答率・スコアが高い傾向にあります。

できている　どちらかといえば、できている　どちらかといえば、できていない　できていない

クロス集計



「主体的･対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるためには、児童生徒が学習の見通しをもち、よりよく学ぶことができるよう方略を工夫したり、振り返ったりしながら、自らに適した学習過程となるよう調整できる機会を計画的に取り入れるよう工夫することが大切です。

児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けたり、単元･題材等の計画や評価規準を児童生徒とあらかじめ共有したり、よりよく学習するための方略を教師や他者の取組から学び自ら工夫できるようにするなど、個に応じた学習過程の充実を目指しましょう。

（２）ICT の活用と情報活用能力に関する学習状況

児童生徒が ICT を活用することに自信がもてる環境づくりをしましょう。

ICT 機器の活用頻度

校種	質問番号	質問項目	「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合（%） 岐阜県（R８）	全国（R８）	全国との差
小	35	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	31.7	20.5	11.2
中	35		55.2	29.3	25.9

ICT機器の活用頻度に関して、「ほぼ毎日」使用していると回答した児童生徒の割合は、**小・中学校ともに全国平均より高い**ことが分かります。特に、中学校においては、ほぼ毎日使用している生徒の割合は５割を超え、**全国平均を約 20 ポイント上回っています。**

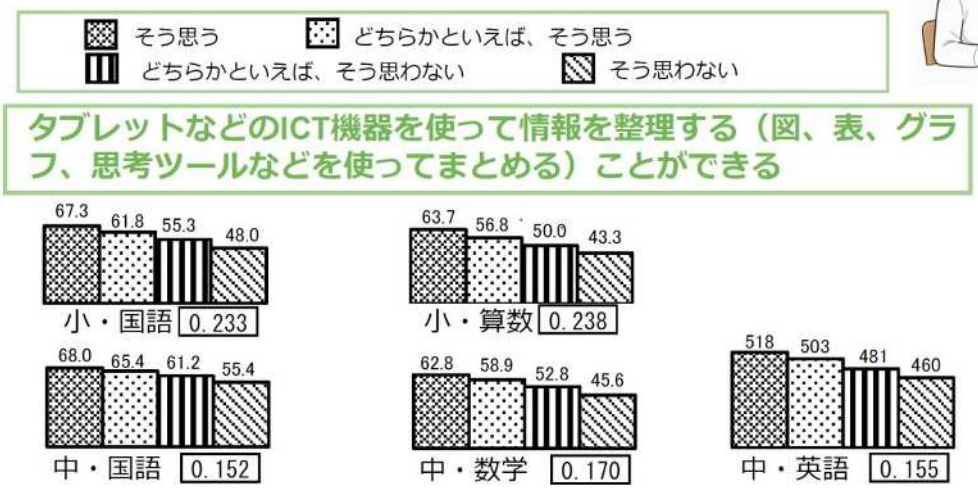
ICT を学習に活用する力

小	36	(1) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	44.9	49.5	▲ 4.6
中	36		56.2	52.6	3.6
小	36	(2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか	59.4	59.4	0.0
中	36		68.0	64.2	3.8
小	36	(3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	32.2	32.8	▲ 0.6
中	36		38.3	32.0	6.3
小	36	(4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	40.0	44.9	▲ 4.9
中	36		48.4	46.4	2.0

ICT 機器を活用する自信に関して、**小学校では全国平均をやや下回っていますが、中学校では全国平均より高い**ことが分かります。ICT 機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。

「ICT 機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。

クロス集計



「探究的な学び」にも ICT が活用されています。

校種	質問番号	質問項目	「とてもそう思う」と回答した児童生徒の割合（%） 岐阜県（R８）	全国（R８）	全国との差
小	48	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか	41.0	40.0	1.0
中	48		40.5	37.3	3.2

各教科等で身に付けた ICT 機器を目的に応じて活用する力が、総合的な学習の時間の「探究的な学び」においても発揮されています。ただし、他の授業よりは、全国の活用頻度との差は大きくありません。

多様な児童生徒の「深い学び」を確かなものにするためには、ICT の活用を教具的発想に留めることなく、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が図れるよう、学習者の学習ツールとしての発想に立った授業を構想し、児童生徒の可能性を引き出すことが重要です。

また、「言語能力」と併せて、各教科等の内容を通じて「情報活用能力」を育成し、探究的な学びの基盤として活用することが求められます。

児童生徒が、自らの学習を主体的に調整できるよう、多様な学びの在り方を示すとともに一人一人の学びの価値を互いに認め合う機会の充実を図りましょう。

（３）児童生徒のウェルビーイングに関する状況

児童生徒に小さな成功体験を積ませ、その子なりの努力や成長を認めましょう。

自己肯定感、自己有用感、幸福感、協働性

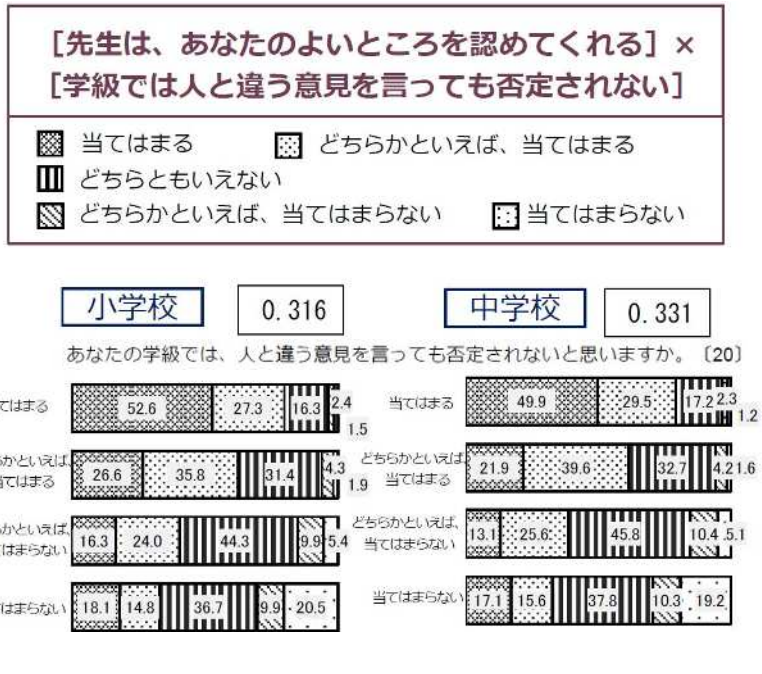
校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（%）		
			岐阜県（R８）	全国（R８）	全国との差
小	8	自分には、よいところがあると思いますか。	45.5	43.6	1.9
中	8		42.9	41.0	1.9
小	9	先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	54.7	53.4	1.3
中	9		53.4	46.7	6.7

校種	質問番号	質問項目	「よくある」と回答した児童生徒の割合（%）		
			岐阜県（R８）	全国（R８）	全国との差
小	46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	55.0	52.7	2.3
中	46		55.5	49.0	6.5

自己肯定感、自己有用感、幸福感に関する質問に対して、「当てはまる」「よくある」と回答した児童生徒の割合は、**全国平均と比べて小学校で低く、中学校で高い**ことが分かります。

「協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は、**小・中学校ともに 55%以上**で、全国平均より高いことが分かります。

クロス集計



児童生徒が「知りたい」「やってみたい」と、問いや願いをもって自ら学習に取り組めるようになるには、**学習に見通しをもって試行錯誤しながら取り組み、その過程と結果を振り返る営みを継続すること**が大切です。また、**仲間や教師が温かく認めてくれているという心理的安全性を確保すること**も欠かせません。学校全体で学びのウエルビーイングが生まれるように、個の側面と集団の側面から学習状況に応じた声かけ等の支援の工夫を考えてみましょう。

2 質問調査を踏まえてどんな改善を図りますか？

令和９年度は、どの質問に注目しますか。令和８年度の実績に基づいて、目標を何%に設定しますか。その目標値に近付くために、具体的に何に取り組んでいきますか。

自校で各職員が書き出したことを取りまとめ、学習指導部会、学年部会、教科部会、研究推進委員会等で話題に挙げ、さらなる授業改善に向けて学校全体で取り組みましょう。

質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（%）	
		R９（自校の目標）	R８（自校の実績）

【参考資料】

下記の資料を参考にして、調査結果の分析や具体的な授業改善の手立てをさらに明らかにしましょう。

国立教育政策研究所

教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html

○　令和８年度　全国学力・学習状況調査　解説資料
・　小学校、中学校別冊…国語、算数・数学、英語

○　令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書
・　小学校、中学校別冊…国語、算数・数学、英語
・　小学校、中学校合冊…質問調査

○　令和８年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会【説明資料】

※　令和７年度以前の関係資料も掲載されています。

岐阜県教育委員会

ぎふっこ学び応援サイト　教員用ページ「全国学力・学習状況調査」
https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/18428.html

○　令和８年度　指導改善資料

※　令和７年度以前の関係資料も掲載されています。

ぎふっこ学び応援サイト　教員用ページ「ICT の効果的な活用」
https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/61777.html

○　＜学びを変える＞ ICT 活用ガイド

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた

指導改善資料２０２６

令和８年９月

編集・発行　　岐阜県教育委員会